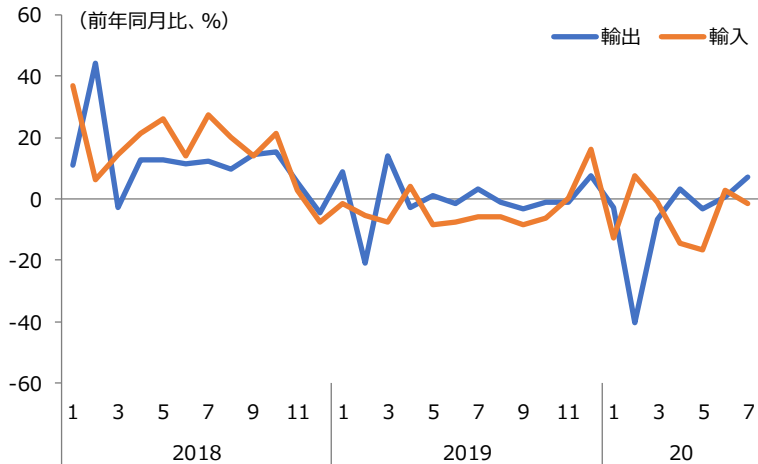


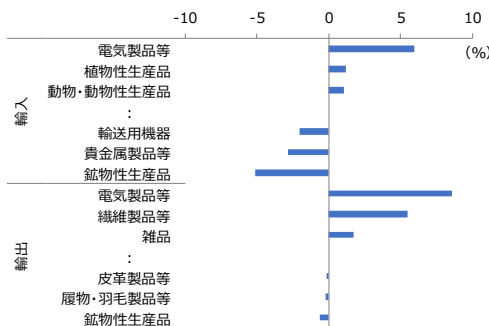
中国

貿易統計（2020年7月）
堅調な輸出も、持続性に懸念政策・経済研究センター
橋本 拓摩
03-6858-2717

1 輸出入



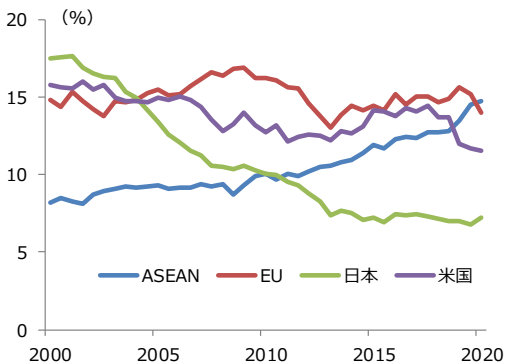
出所：CEICより三菱総合研究所作成

2 輸出入の品目別増減
(対前年同月比)

注1：HSコード別に1部：動物・動物性生産品、2部：植物性生産品、5部：鉱物性生産品、8部：皮革製品等、11部：繊維製品等、12部：履物・羽毛製品等、14部：貴金属製品等、16部：電気製品等、17部：輸出用機器、20部：雑品と記載。
注2：2020年4月～6月の平均。

出所：Windより三菱総合研究所作成

3 中国貿易量の各国・地域別シェア



出所：CEICより三菱総合研究所作成

評価ポイント

今回の結果

- 中国税関総署が発表した2020年7月の輸出は、市場予想に反しドル建てで前年同月比7.2%増加、前月から2カ月連続のプラスとなるなど、堅調な結果となった。
- 国別で見ると、ASEANへの輸出が同14.0%と増加したほか、米国向けが同12.5%と回復傾向にある。一方、EU（同▲3.4%）、日本（同▲2.0%）向けの戻りは弱い。
- 輸入は、前年同月比▲1.4%減少し、貿易黒字は623.3億ドルと前月から拡大した。うち、対米国の貿易黒字が324.6億ドルと過半を占め、前月294.1億ドルから拡大しており、米国大統領選を前にトランプ米政権は対中圧力を再び強めるおそれがある。

基調判断と今後の流れ

- 7月の品目別詳細データが出揃うまで後日の発表を待つ必要があるが、4-6月の輸出入の品目別増減をみると、輸入では、リモートワークの拡大などを支える電気製品等の輸入が増えた一方、資源価格の下落により鉱物性生産品の輸入が減少した（図表2）。
- 輸出では、輸入同様、世界的なりリモートワークの拡大などを支える電気製品の輸出が増えたことに加え、マスクを含む繊維製品の輸出も拡大した。7月もこれら製品の輸出の伸びがけん引したとみられる。ただし、コロナ禍におけるリモートワーク対応などのための電気製品の需要が一巡すれば、輸出は再び減少傾向となる可能性が高い。7月の製造業PMIの「輸出向け新規受注」は48.4と、景況判断の節目となる50を7カ月連続で下回る水準で推移している。
- 国・地域別では、1-6月の輸出と輸入を合計した貿易額で、ASEANは前年同期比2.2%増の2,984億ドルとなり、EUを抜いて初めて首位となった（図表3）。近年の米中貿易摩擦の影響により、またコロナ禍で欧米の需要が相対的に縮小するなか、中国を需要地としたASEAN地域からの輸入は、中国の内需回復を背景に増加を辿ろう。
- 特に、ベトナムとの貿易額の増加が顕著となっている。中国の貿易全体に占めるシェアでは、ベトナムは10年に1%程度で推移していたが、20年1-6月は3.9%に上昇した。ASEAN全体の対中貿易量の4分の1超を占めるなど、存在感を増している。
- 米中貿易摩擦やコロナ禍を受けてサプライチェーンの再構築が進むなか、ASEAN地域の重要性は今後高まる。